

2022年 12月 23日 第93号

JR 東労組 學 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川一実編 集情宜担当ホームページ



http://www.jreu-yokohama1.jp/

「2023年3月ダイヤ改正について」提案を受ける

JR 東労組横浜地本は 12 月 23 日に、横浜支社から 2023 年 3 月ダイヤ改正の提案を受けました。改正施行日は 3 月 18 日です。長引くコロナ禍による通勤輸送の戻りは弱く、会社はダイヤの設定の見直しにより少しでも収益確保につなげると述べています。ダイヤ改正に伴う提案内容および要旨については以下の通りです。

提案時の議論における特徴

- (組)「運輸関係現業機関乗務員運用の見直し」で議論した、乗務員による駅業務の考え方は?
- (会)業務のさらなる融合と連携に向けた「その他時間」を行路内の一部の時間に指定していく。 稠密線区を含めた<u>すべての乗務員職場の一部行路</u>で、<mark>指示業務(駅業務)を設定</mark>した。「多様な経験」 という目的は変わらない。交番内の日単位は現状考えていない。基本は最寄り駅の業務を考えている。
- (組) 私たちが検証の申し入れを行い、交渉を行ってきた相模線の停車時分の改善は図られたのか?
- (会) 停車時分は見直しを行っていないが、現場の要望もあり、<u>折り返し間合いの僅少については改善</u>する。
- (組) 東海道線で「湘南」17:30 東京発の設定意図と、快速アクティ運転取りやめについての考え方は?
- (会) 「湘南」は<u>早い帰宅時間帯のニーズ</u>があり、収入確保につながると判断したため。アクティの見直しは、 沿線自治体からの停車要望が多く、種別を分かりやすくするためである。

改正後の乗務員関係の業務量および行路数の見直し内容

区所名	データ・諸元		指示業務の指定位置
川崎	運転士 :泊7本、日勤5本(平日) 車掌	: 泊 4 本、日勤 5 本(平日)	運転士:6d 夕方後
	<i>現改 : ±0本 </i>	:±0本 ±0本	車掌:57d 明け後
統括センター	<i>乗務[‡]。:±0km</i>	:±Okm	
	運転士 : 泊 28 本、日勤 26 本(平日) 車 掌	:泊 24 本、日勤 27 本(平日)	平日のみ設定
川 崎 運 輸 区	<i>現改 : ±0本 </i>	:±0本 ±0本	運転士:27d 明け後
	<i>乗務‡。:▲22.8km</i>	:±Okm	車掌 :127d 明け後
	<mark>運転士</mark> :泊17本、日勤13本(平日) <mark>車 掌</mark>	:泊 20 本、日勤 22 本(平日)	運転士:406d 日勤後
横 浜 運 輸 区	現改 : ±0本 ±0本	:±0本 +1本	車掌 :313d 日勤後
	乗務 [‡] 。:▲96.0km	: + 80.5km	
	運転士 :泊25本、日勤25本(平日) 車掌	:泊 22 本、日勤 23 本(平日)	運転士:日勤後(平 10、休8)
相模原運輸区	<i>現改 : ±0本 +1本</i>	: +1本 ▲1本	車掌:日勤後(平111、休105)
	乗務 [‡] 。: +21.8km	:±Okm	
	<mark>運転士</mark> :泊26本、日勤26本(平日) <mark>車 掌</mark>	:泊9本、日勤16本(平日)	運転士:16d 日勤後
大船運輸区	現改 : ±0本 ±0本	:±0本 ±0本	車掌:日勤後(平507、休503)
	乗務 [‡] 。: ± Okm	: ▲ 29.2km	
湘南・相模	運転士:泊13本、日勤4本(平日)		1d 日勤後
	<i>現改 : ±0本 </i>		7001d 日勤後
統 括センター	乗務 [‡] 。: ± Okm		14d 明け後
	運転士 :泊25本、日勤14本(平日) 車掌	: 泊 13 本、日勤 8 本(平日)	運転士:210d 乗務間合い
国府津運輸区		:±0本 ±0本	車掌:平 17d 乗務間合い
	乗務 [‡] 。: + 175.5km	+23.1km	休 17d 乗り出し前
小田店. 伊豆	MET 1 14 0 4 10 11 11 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	:泊8本、日勤5本(平日)	運転士:55d 日勤後
小田原・伊豆	現改 : ±0本 ±0本	:±0本 ▲1本	車掌 :10d 明け後
統 括センター	乗務 [‡] 。:▲15.7km	: ▲ 39.2km	

車両配置区の要員体制については、今ダイヤ改正による見直しは提案されませんでした。2023 年 6 月の、 車両職場の首都圏本部への集約に関連した動きも、今ダイヤ改正では発生しないと回答がありました。

部会・分科会・分会と共に、乗務行路の改善に向けた検討を進めていきます。 職場で知恵を出し合い、安全・健康・ゆとい・働きがいある労働環境を実現しよう!